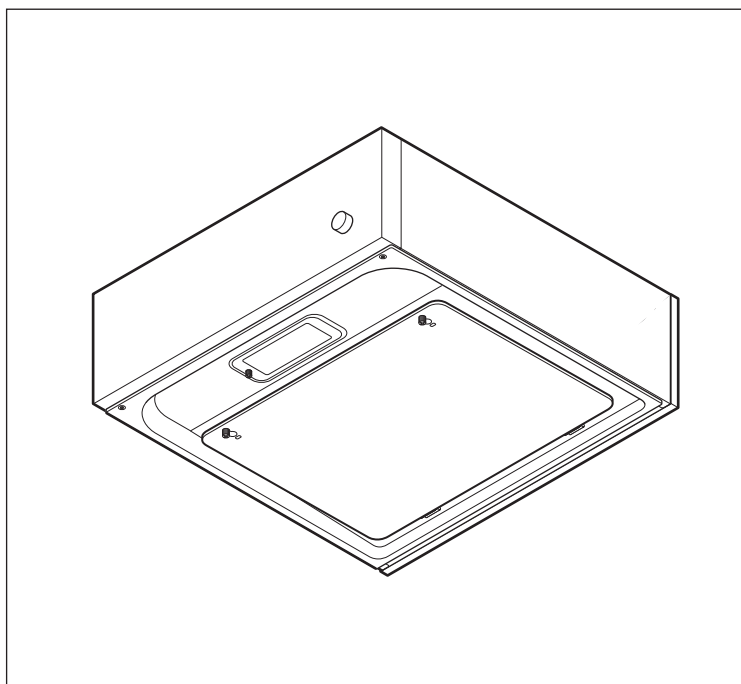


レンジフード 取付説明書



も く じ

安全上のご注意.....	2 ～ 3
取り付け上のお願い.....	4
取り付け前の調査と準備.....	5 ～ 7
各部のなまえ	8
付属品.....	8
製品寸法図	9
取り付けかた	10 ～ 20
1. 本体の準備	10 ～ 12
2. 排気用部品の準備.....	13 ～ 14
3. 本体の取り付け.....	15 ～ 16
4. ダクトと排気用部品の接続	16 ～ 17
5. 電気配線.....	17
6. 後幕板の取り付け.....	18
7. オイルパネル・アクアスリットフィルタ・ 整流板の取り付け.....	19
8. 試運転.....	20
9. お客様への説明.....	20

販売店・工事店様へ：
この取付説明書は取り付け後、
施主様へ必ずお渡しください。

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、
正しく取り付けをおこなってください。

9303 3781



安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。



注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告



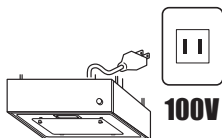
分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



埋込禁止

- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



取付注意

- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください



取付注意

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります



取付注意

- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

安全上のご注意

警告



取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります



取付注意

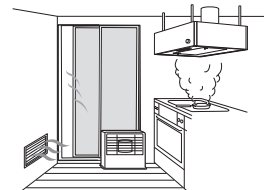
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること

排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります



注意



使用禁止

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります



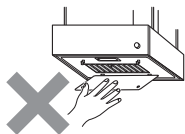
取付禁止

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります



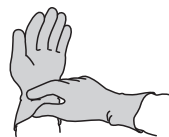
接触禁止

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



手袋をする

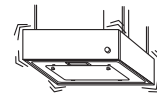
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

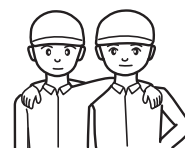
- 部品の取り付けは確実にこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取扱注意

- 作業は 2 人以上でこなうこと
レンジフードは約 18kg の重さがあります



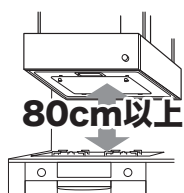
取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- ・大工工事【設置のための下地工事等】
- ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
- ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

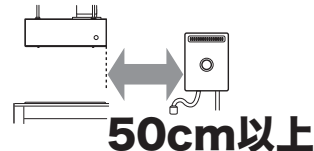
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は $400\text{m}^3/\text{h}$ 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。

また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm^2 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

取り付け前の調査と準備



警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



埋込禁止

- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください



取付注意

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

火災などの原因になります



取付注意

- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること

火災・故障の原因になります



注意



取付禁止

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと

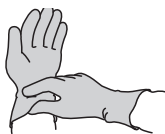
火災・故障の原因になります



手袋をする

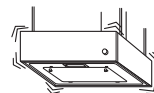
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする

鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実に



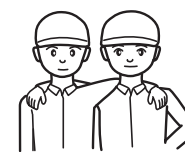
おこなうこと
落下によりけがをする
おそれがあります



取扱注意

- 作業は 2 人以上でおこなうこと

レンジフードは約 18kg
の重さがあります



取り付け前の調査と準備

3 排気ダクトの取り出し（取付詳細図－1）

（単位：mm）

φ 150 のスパイラルダクトを、右図の位置に取り出してください。

お願い

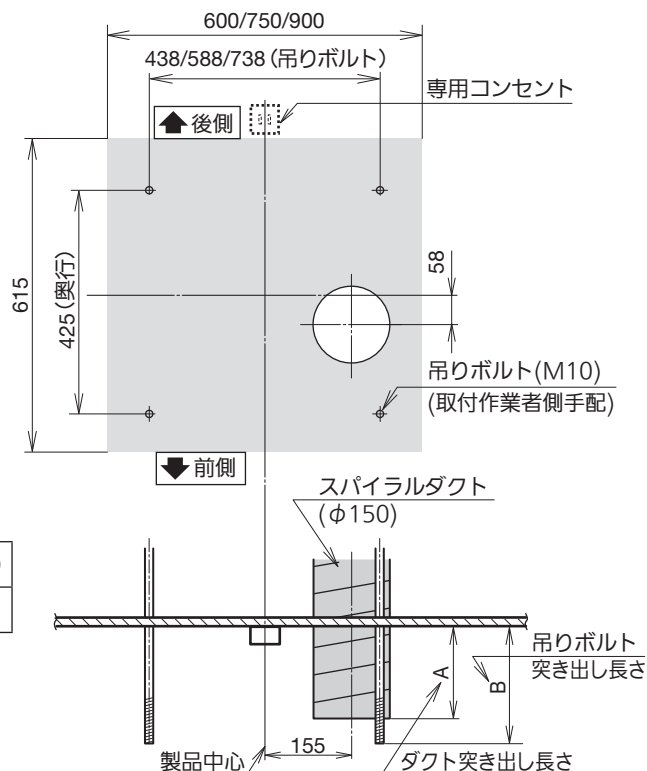
ダクト突き出し長さ（A）と吊りボルト突き出し長さ（B）は取付要領図の製品上面から天井面までの高さ（H）により異なります。次式により算出してください。

ダクト突き出し長さ（A）＝ $H - 40$ （± 10）

吊りボルト突き出し長さ（B）＝ $H + 30$ （± 10）
（単位：mm）

例）H = 200 の場合（単位：mm）

ダクト突き出し長さ（A）	吊りボルト突き出し長さ（B）
160 ± 10	230 ± 10



4 吊りボルトの取り付け（取付詳細図－2）

（単位：mm）

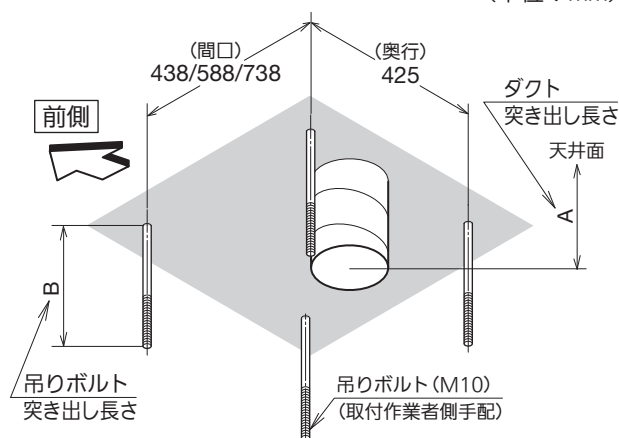
M10 の吊りボルトを4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは右下表の通りです。

※ 吊りボルトは M10 を用いてください。

※ 吊りボルトは、製品を支える十分な強度を確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

お願い

- ・ M10 吊りボルト（4 本）、M10 ナット（8 個）およびワッシャー（8 枚）は取付作業側にて手配してください。
- ・ 吊りボルトを用いた設置の際、揺れ等が生じる場合は、振れ止め等での補強をおこなってください。



（単位：mm）

固定ピッチ	
奥行	間口
425	438/588/738

5 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。

※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

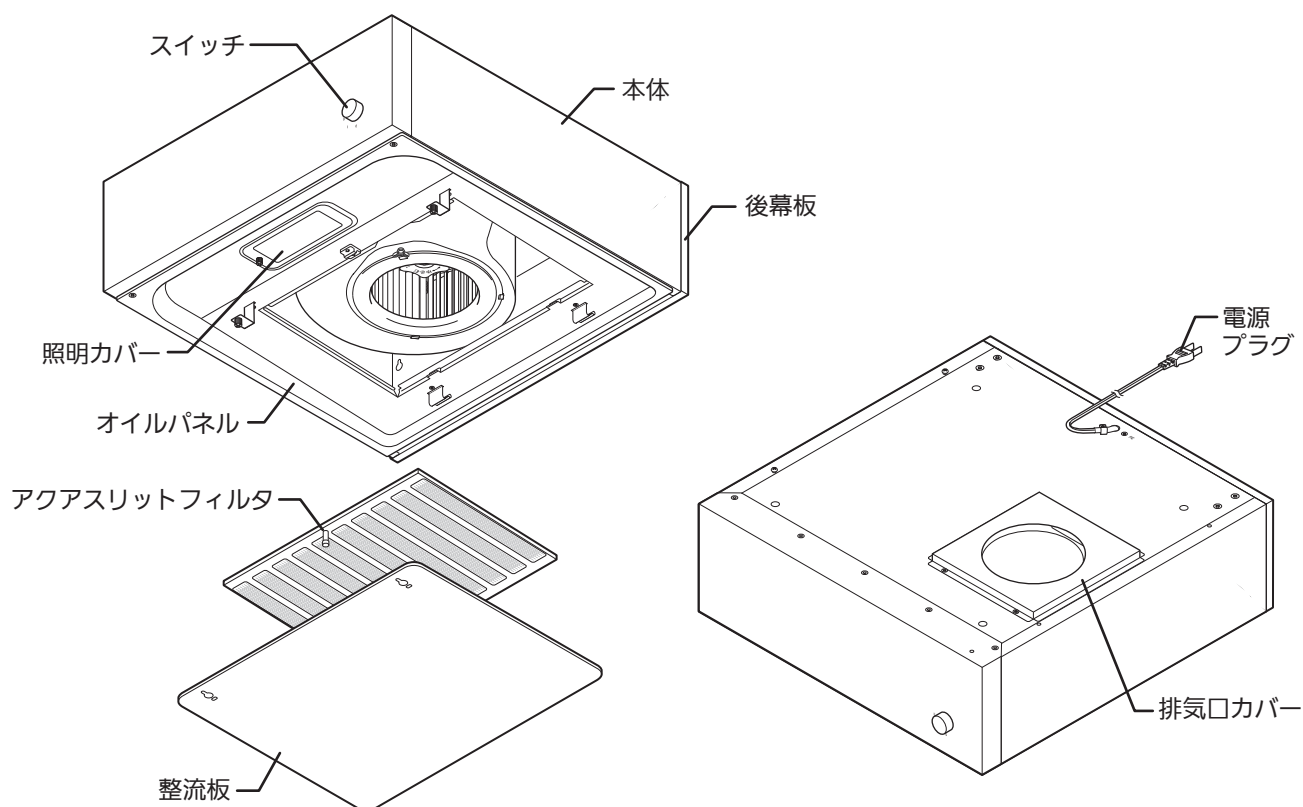
6 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。





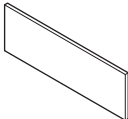

お願い

必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

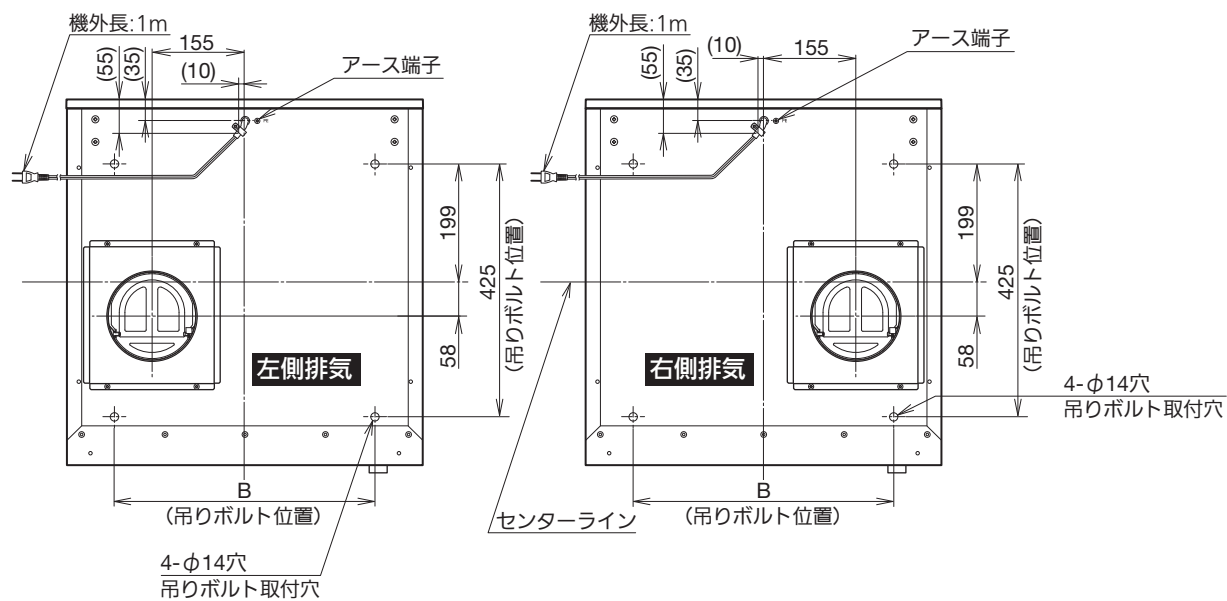


付属品

	取付ねじ (M4 × 8) : 4 本 排気口、引掛け金具の取り付けに 使います。		ソフトテープ : 1 本 排気口とダクトとのすきまをふさ ぐのに使います。
	取付ねじ (M4 × 10) : 4 本 後幕板の取り付けに使います。		排気口 : 1 個 本体とダクトの接続に使います。 逆風防止シャッター付きです。
	後幕板 : 1 個 本体後面に取り付けます。		引掛け金具 : 1 個 排気口の取り付けに使います。

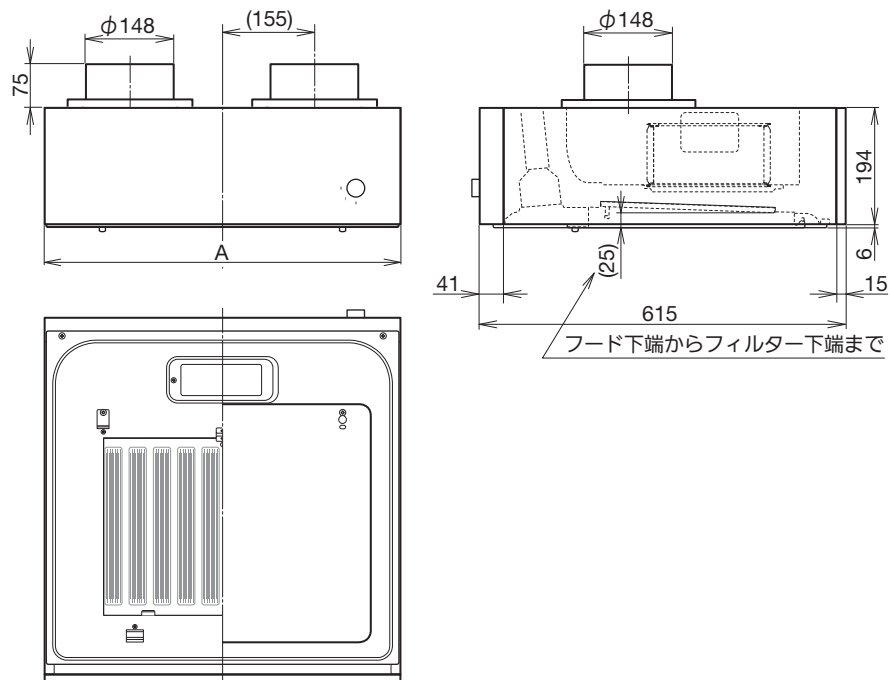
製品寸法図

(単位：mm)



	A寸法	B寸法
600幅	600	438
750幅	750	588
900幅	900	738

※排気方向は上方排気のみになります。



取り付けかた

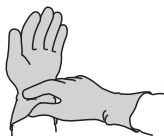
1. 本体の準備

⚠ 注意



手袋をする

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取扱注意

- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは約 18kg の重さがあります



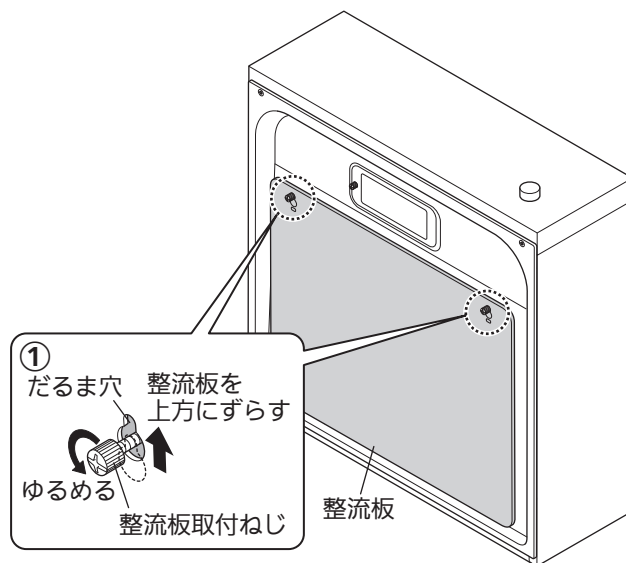
お願い

- ・ 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- ・ 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

※ 本体を下図のように置いて作業をおこなってください。

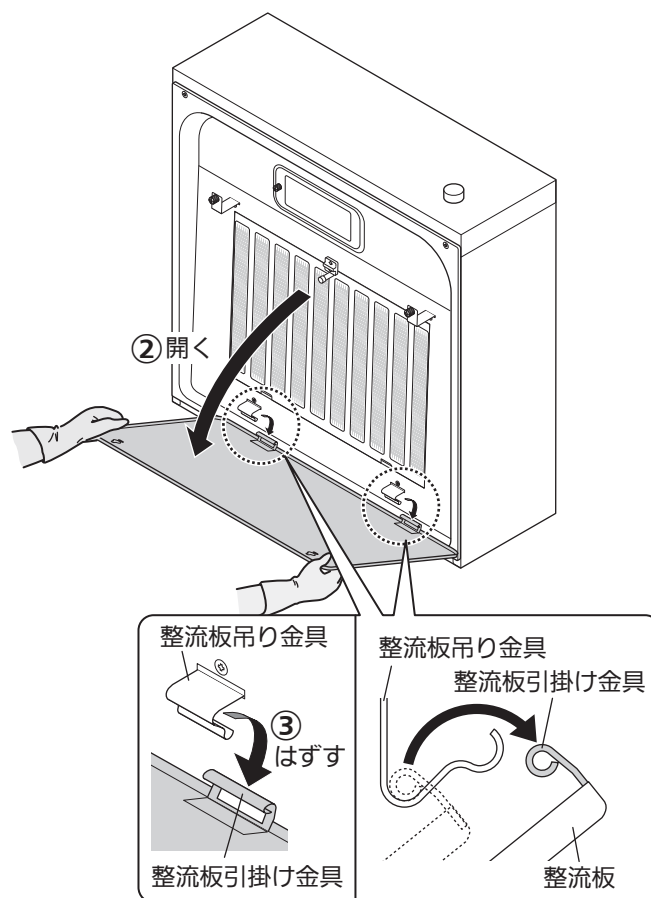
1 整流板をはずします。

- 1) 整流板を固定している左右の整流板取付ねじをゆるめ、両手で支えながら整流板取付ねじがだるま穴の中心部にくるように整流板を上方にずらします (①)。

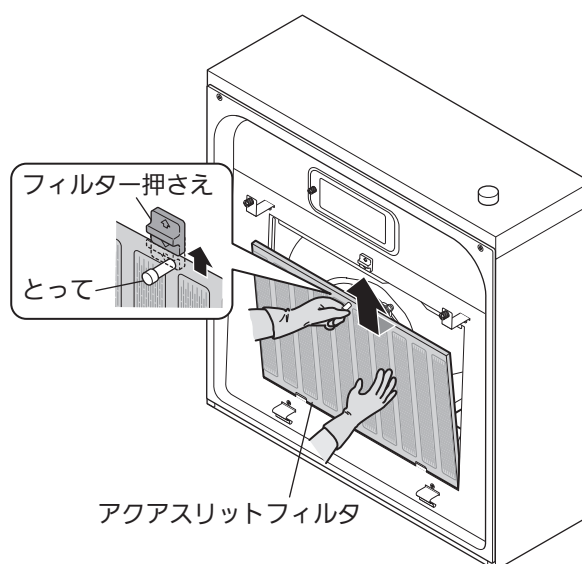


取り付けかた

- 2) 整流板を両手で支えながら手前へゆっくりと開きます (②)。
 - 3) 整流板の奥を少し持ち上げ、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします (③)。
- ※ 必ず左右同時にはずしてください。
金具の変形の原因になります。



- ## 2 アクアスリットフィルタをはずします。
- アクアスリットフィルタを片手で支えながらフィルター押さえを上方にスライドさせ、アクアスリットフィルタのとってを持ち、上方に引き出します。

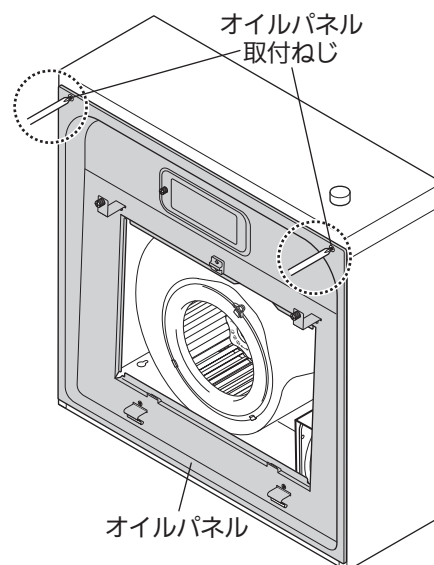


取り付けかた

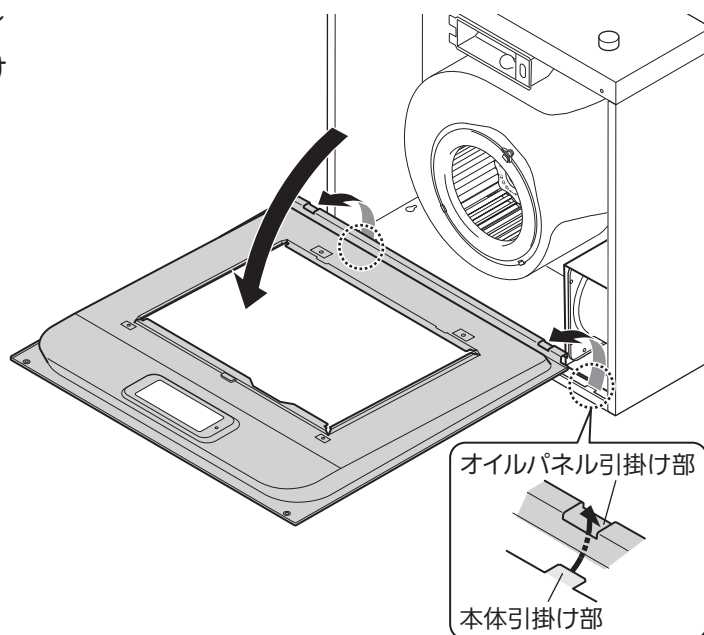
3 オイルパネルをはずします。

1) オイルパネル取付ねじ2ヶ所をゆるめ、
オイルパネルを手前に開きます。

※ オイルパネル取付ねじはオイルパ
ネルからはずさないでください。



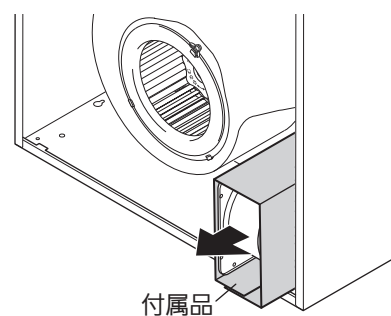
2) オイルパネルを持ち上げながら、オイ
ルパネル後方の引掛け部を本体引掛け
部からはずします。



4 付属品を取り出します。

本体内側から付属品を取り出し、付属品一覧
(8 ページ) により不足がないか確認します。

※ 引掛け金具は取付説明書に付属しています。



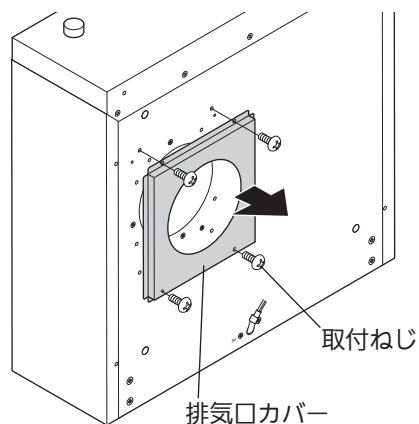
取り付けかた

2. 排気用部品の準備

※「1. 本体の準備」手順 4（12 ページ）の項で取り出した排気口を用意します。

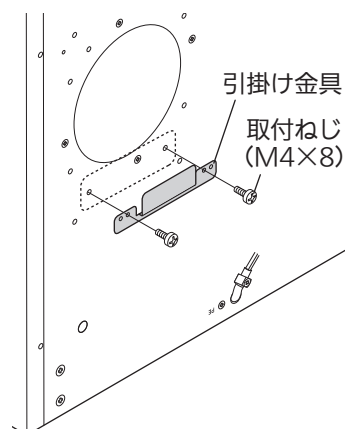
1 排気口カバーをはずします。

排気口カバーを固定している取付ねじ 4 本をはずします。



2 引掛け金具を取り付けます。

付属品の取付ねじ (M4 × 8) 2 本を使用し、付属品の引掛け金具を本体上面の右図位置に取り付けます。



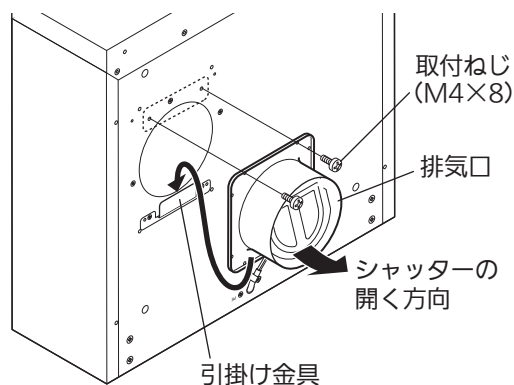
3 排気口を取り付けます。

1) 排気口を手順 2 で取り付けた引掛け金具に差し込み、付属品の取付ねじ (M4 × 8) 2 本で本体上面の右図位置に取り付けます。

※ 取付方向は右図を参照してください。

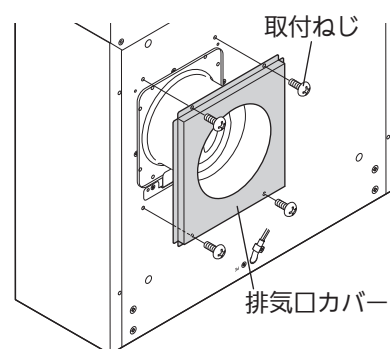
お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因となります。

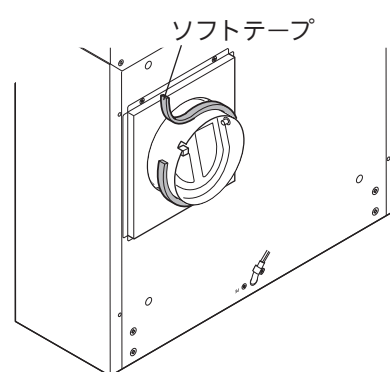


取り付けかた

2) 手順 1 ではずした排気口カバーを排気口にかぶせ、はずした取付ねじ 4 本で取り付けます。



3) 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。



取り付けかた

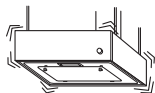
3. 本体の取り付け

⚠ 注意



取付注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実に起こすこと
落下によりけがをするおそれがあります

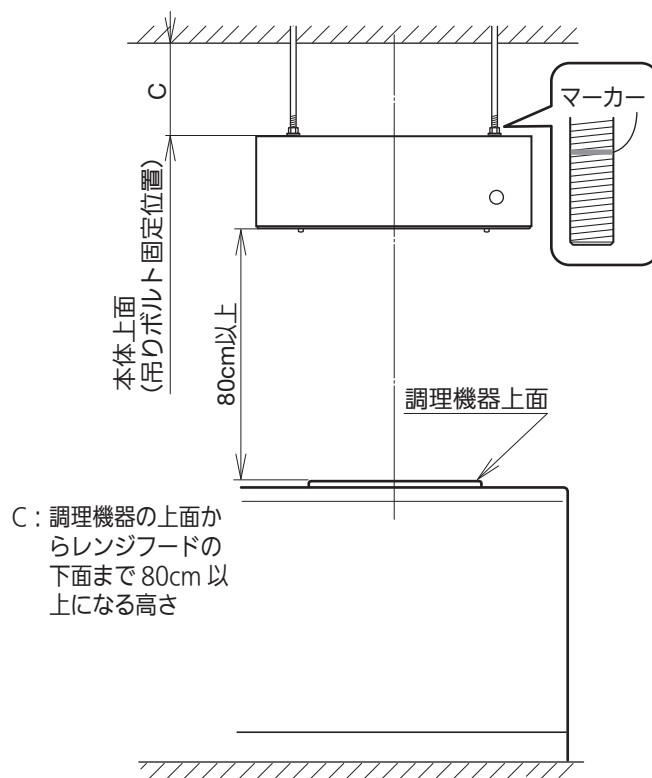


取付注意

- 部品の取り付けは確実に起こすこと
落下によりけがをするおそれがあります



- 1 レンジフードの固定位置を決めます。
吊りボルトにマジックペンなどで、吊りボルト固定金具位置にマーカをつけます。

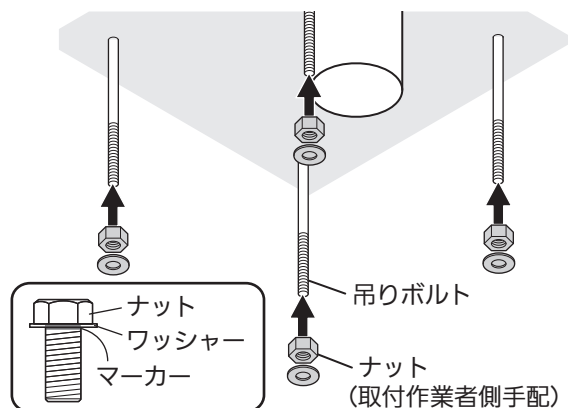


- 2 ナットとワッシャーを吊りボルトにねじ込みます。

M10 のナットとワッシャー（取付作業側手配）を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。

お願い

取付完了時、調理機器上面からレンジフード下面まで 80cm 以上にならない場合は調節してください。



取り付けかた

3 本体を吊りボルトに固定します。

- 1) 本体を持ち上げて4ヶ所の吊りボルト取付穴に吊りボルトを差し込み、本体を挟み込むように吊りボルト下側からM10のナットとワッシャー（取付作業側手配）でしっかりと締め付けます。

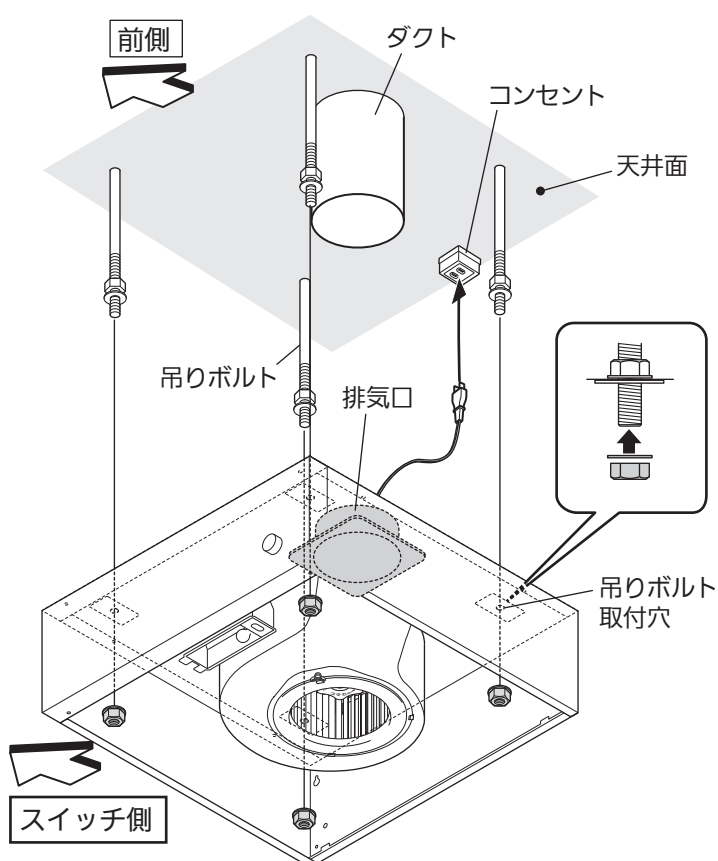
お願い

ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

- 2) 「5. 電気配線（17ページ）」を一読してから、電源プラグを天井などのコンセントに差し込みます。

※ 必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。

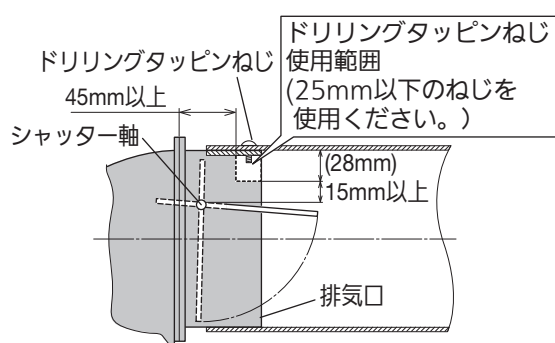
※ アース（D種接地工事）を取り付けます。



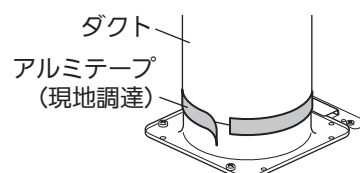
4. ダクトと排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。



■ 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。

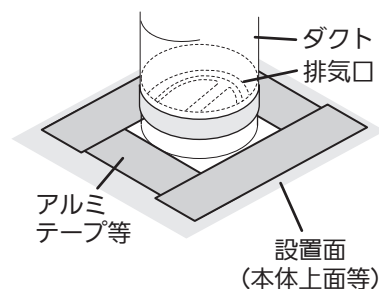


取り付けかた

■ 排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（本体上面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。

漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。



5. 電気配線

警告



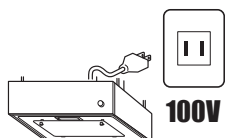
分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

1 アース工事（D 種接地工事）をおこないます。

※ アース線は取り付け作業側にて手配してください。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

（「3. 本体の取り付け」手順 3 の 2）（16 ページ）でおこなってください。）

お願い

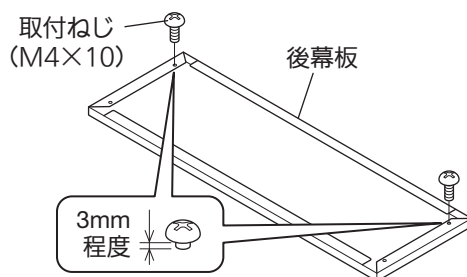
- ・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- ・「8. 試運転（20 ページ）」までブレーカーは「入」にしないでください。

取り付けかた

6. 後幕板の取り付け

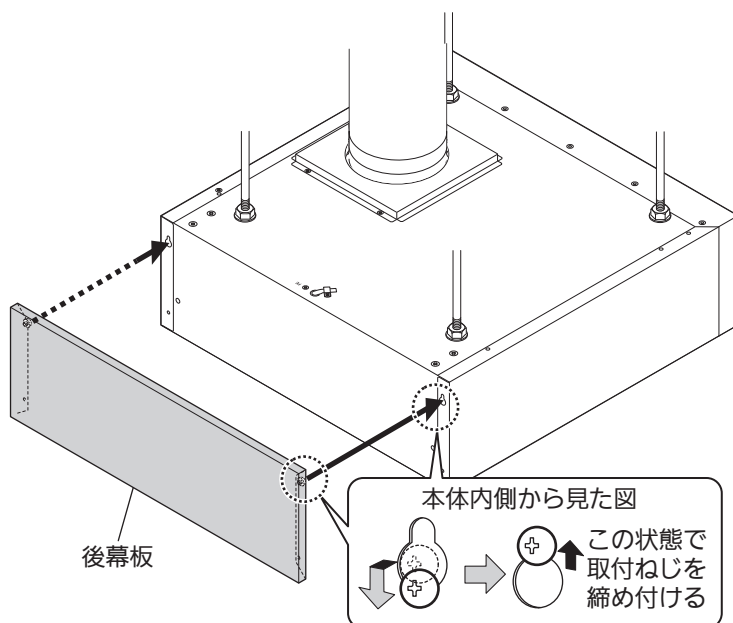
1 後幕板を準備します。

付属品の取付ねじ (M4 × 10) 2 本を、後幕板とのすきが 3mm 程度になるところまで締め付けます。

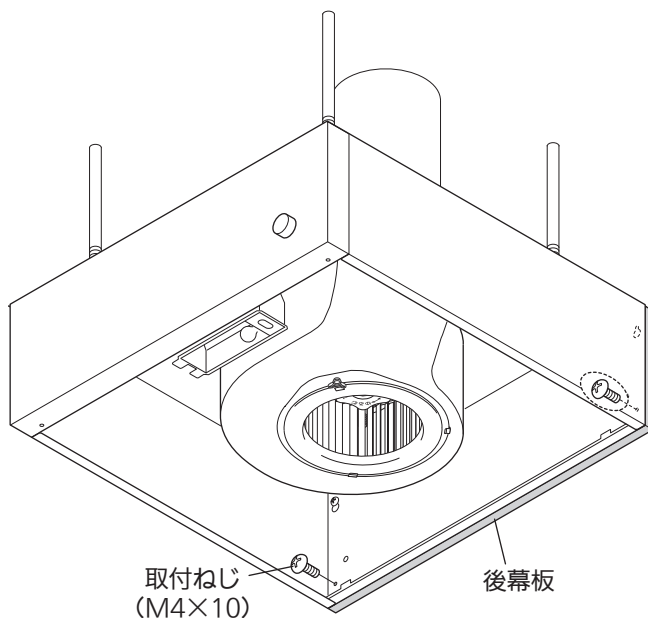


2 後幕板を本体に取り付けます。

1) 手順 1 で取り付けた取付ねじ 2 本を本体のだるま穴に引っ掛けたあと、後幕板を押し上げながら、本体内側から取付ねじをしっかりと締め付けます。



2) 本体内側から付属品の取付ねじ (M4 × 10) 2 本で後幕板を固定します。

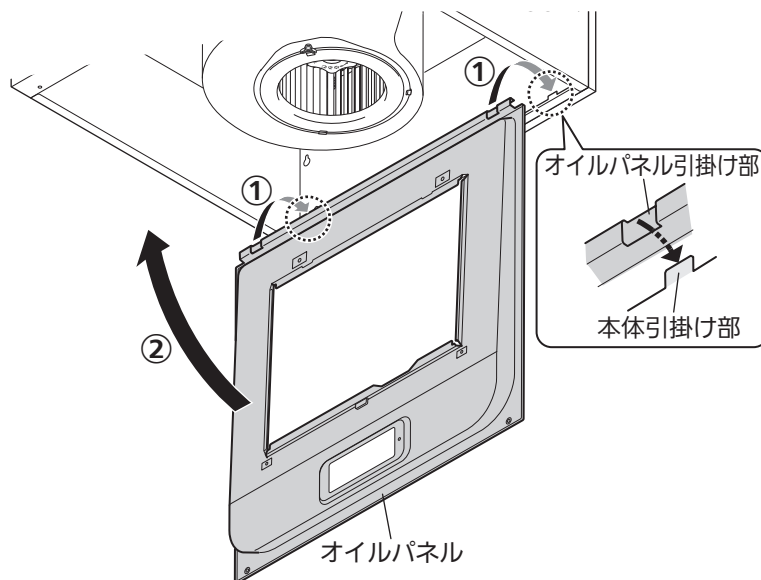


取り付けかた

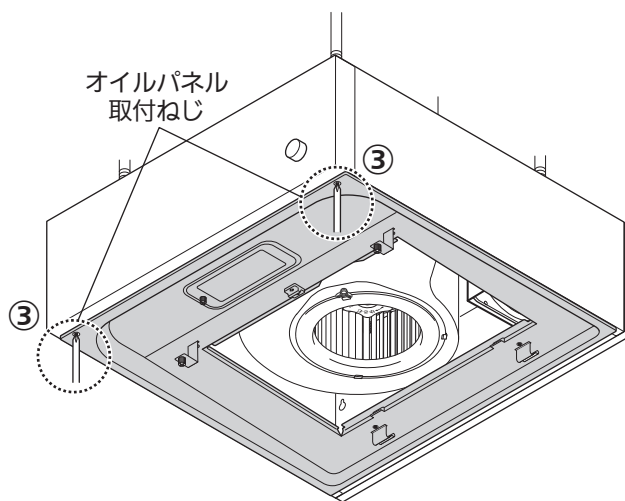
7. オイルパネル・アクアスリットフィルタ・整流板の取り付け

1 オイルパネルを取り付けます。

- 1) オイルパネル後方の引掛け部を本体引掛け部に引っ掛け (①)、
オイルパネル手前側を持ち上げます (②)。



- 2) オイルパネルを手で支えながら、
オイルパネル取付ねじ 2 本を締め
付けます (③)。




2 アクアスリットフィルタ、整流板を取り付けます。

「1. 本体の準備」手順 1～2 (10～11 ページ) を参照して
アクアスリットフィルタ、整流板を元通りに取り付けます。

取り付けかた

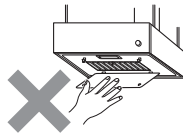
8. 試運転

⚠ 注意



接触禁止

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 必ず最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。